

富山 多子・ひとり親世帯に入学金も無償化！

富山県が、来年度から年収910万円未満の多子・ひとり親世帯を対象に、授業料だけでなく入学金も含めた助成を開始すると発表しました。地元紙が1面トップで報道しました。多子・所得制限付きとはいえ、入学金も含む「実質無償化」は全国初。富山育てる会では、前年より800筆多い4400筆以上の署名を集約し、紹介議員に託しています。

私立高 授業料無償化

子ども施策 最高407億円

年収910万円未満 多子・ひとり親世帯 入学料含み全国初

県は2024年度、子ども関連事業に過去最高の407億円を計上し、子育て世帯や困難を抱える子どもへの支援に注力する。年収910万円未満の多子世帯やひとり親世帯を対象に、私立高校の授業料や入学料を実質無償化する。入学料を含む支援は全国初。子どもの居場所づくりや、出産前からのヘルパー派遣事業なども実施し、妊娠から子育てまで切れ目のない支援を進める。19日に発表した当初予算案に費用を計上した。

【関連記事4、5、22面】

子育て・教育関連の主な事業	
私立高校の授業料と入学料について、年収910万円未満の多子世帯とひとり親世帯で実質無償化	3億1,021万円
0～2歳の第3子以降の保育料を完全無償化	1億9,300万円
小中学生と知事との意見表明交流会や、子ども県政モニターなどを行い、子どもの声を施策に反映	50万円
電子ポイントの「子育て応援券」を、1歳半時に一律3万円配布	2億2,370万円
産後に加え、産前もヘルパーの派遣を依頼できるように内容を拡充。1時間単位で利用可能に	600万円
困難を抱える子どもの居場所開設や特色ある取り組みを行う民間団体支援	300万円
子ども食堂の運営費を支援	320万円
ヤングケアラーがいる家庭にヘルパーを派遣	1,150万円
不登校児童・生徒らが通うフリースクールの利用料を1カ月1万5000円を上限に支援	1,197万円
小学校でスクールカウンセラーの配置を拡充	2億1,213万円

県新年度予算案



南からの強い横風を受ける歩行者＝19日午後1時20分ごろ、富山市総曲輪（石黒航大撮影）

強い南風 気温上昇

19日の県内は4月下旬～5月中旬並みの暖かさになった。富山地方気象台によると、日中の最高気温は富山で20.9度、高岡(伏木)で21.1度と、県内全10観測地点のうち7地点で今年最高を記録。南から強い風が吹いたため、一部の列車が強風で遅延となった。富山市総曲輪では昼ごろ、風で髪やスカートをなびかせる歩行者が見られた。最大瞬間風速は富山市秋ヶ島で19.5m/s、富山で19.3m/s、高岡で11.4m/sなど。

JR西日本は、高山線で特急ひだの上下線6本の運転を取りやめた。約400人に影響が出た。

20日以降は冷たい北風が吹くため気温が下がる見込み。同気象台によると、富山と高岡の天気は0日が雨や雪となる。

北日本新聞2月20日付

今年最高 富山20.9度

私立高校の補助事業は、年収が590万円以上910万円未満の世帯のうち、子どもが3人以上いる世帯とひとり親世帯に、国の補助と合わせ、毎月3万3千円の授業料を支援。新1年生には入学料約12万5千円を助成する。

県は23年度に私立高校の授業料補助を拡充しているが、子育ての負担が大きい世帯に県独自の支援を上乗せすることで、既に実質無償化している県立と私立の負担の格差を是正し、所得

にかかわらず進路を選択できる環境を整える。不登校など困難を抱える子どもへの支援として、学校外のフリースクールを利用する家庭に対し、毎月1万5千円を上限に利用料を補助。所得にかかわらず全世帯を対象に支援するのは全国初となる。大人に代わって家事や家族の世話を担う「ヤングケアラー」がいる家庭には、他県に先駆けヘルパーを派遣。状況を把握し、さつたる支援策に役立てる。

子育て世帯の経済的・身体的負担を軽減するため、0～2歳の第3子以降の保育料を全15市町村で無償化する。これまで産後の利用に限られていたヘルパーの派遣を産前に拡充する。

県の24年度当初予算案における民生費と教育費のうち子ども関連予算は407億円で、23年度の386億円より21億円増やした。新田八朗知事は県議事堂で会見し「子どももみんなが社会の構築に重点を置いた。困難な状況にある子どもを含め、誰一人取り残さない県にしたい」と述べた。